

山梨学院大学

多様性に富む環境の中でグローバル人材を育む

国際リベラルアーツ学部を中心に

「全学的国際化」を推進

山梨学院大学は大学の改革ビジョンとして「全学的国際化」を掲げ、グローバル人材の育成に力を注いでいる。2015年に設立された国際リベラルアーツ学部（以下、iCLA）は、その取り組みをリードする存在だ。また、全学的国際化の一助として、海外研修プログラムなどの制度も用意されており、多くの学生が参加している。同大学が進めるグローバル人材育成の実態に迫った。

制作／東洋経済企画広告制作チーム

様々な国から留学生が集い 多様性を学ぶ機会を提供

iCLAは、外国人留学生の比率が約9割というユニークな学部だ。コロナ禍では外国人留学生の入国が規制されたが、2023年4月には政府の水際対策が終了し、多くの留学生がキャンパスに戻ってきた。



国際リベラルアーツ学部
副学部長
ロザリオ・ラッタ教授

副学部長のロザリオ・ラッタ教授は次のように振り返る。「大きな教室で対面式の授業が行えるようになりました。ただし、それによって授業の質を落とすとはならないと考えました。iCLAは少人数クラスでの学生参加型の講義に特徴があります。それをどう維持すべきか、カリキュラムやシラバス、評価制度を見直しました。また、24年4月からは新たに心理学のメジャー（専攻）を設置し、インターディシプリナリー・データ・サイエンスのメジャーも新設します。これは学生のニーズ、社会のニーズに応えるものですが、これにも1年以上の時間をかけて準備しました」



(上)「ダイバーシティデー」では、留学生が出身国の文化などを紹介



(下)学生が音楽演奏などのパフォーマンスを行うイベント「GALA」

ラクティブなゲームなどを通じて、多様性を学ぶことができます。このほか、年2回行っている『GALA』と呼ばれるイベントでは、学生が音楽、芸術などのパフォーマンスを行います（ラッタ教授）

また、現在約70の大学と協定を結んでおり、海外の他大学とのつながりもiCLAを特徴づける。「本学は、アジア各国のリベラルアーツ

ラッタ教授は次のように振り返る。「大きな教室で対面式の授業が行えるようになり

iCLAは15年に設立されたが、以後、着実に実績を積み重ねている。山梨学院大学が進める「全学的国際化」や、「30プロジェクト（2030年までに学生・教員・職員の外国人比率と、全授業科目のうち外国語で行う授業の割合をそれぞれ30%に引き上げる取り組み）」では、中心となって牽引してきた。iCLAでは現在、専任教員の約7割が外国人教員、学部生の約9割は留学生が占めるという。留学生の国籍は50以上の国と地域に及ぶ。多くの留学生から選ばれる理由はどこにあるのか。

教育に力を入れる大学で構成される『アジアリベラルアーツ大学連合（AALAU）』にメンバーとして参加しており、23年にはAALAUの学長フォーラムをiCLAで主催しました。こうしたグローバルなネットワークも活用しながら、iCLAでのリベラルアーツ教育をさらに革新的に向上させていきたいです」とラッタ教授は力を込める。

米国のコンペティションで
同大学の学生が
最高賞を受賞

山梨学院大学の「全学的国際化」は、語学教育だけ

カリキュラムのほとんどを英語で行うこととです。少人数クラスで、

ディスカッションやディベートを取り入れた講義を行っています。学生寮でも、食堂でも、英語が日常会話になります。日本人学生にとっても、日本にいながら留学しているような学習環境を得られます（ラッタ教授）。一方で、留学生向けの日本語教育にも力を入れており、基礎から上級までレベルに応じた日本語が習得できるといいます。

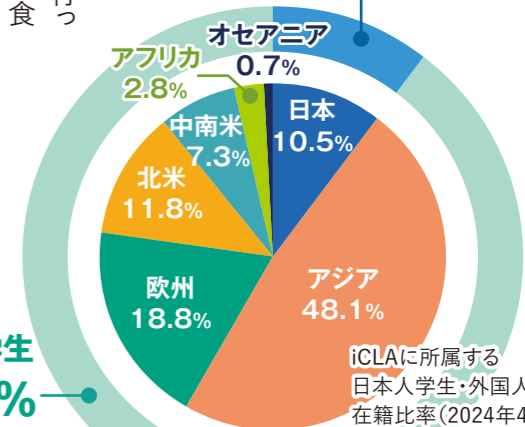
英語でリベラルアーツを学ぶ山梨学院大学ならではのカリキュラムの特色もある。「18歳の学生は入学時に何を学びたいか、まだはっきりしていません。そのため本学では、入学後すぐにメジャーを選択するのではなく、学生一

人でなく、多様な文化背景を持つ学生たちが学び合う国際共修の機会を提供することを目指しているという。同大学カレッジスポーツセンター副センター長の幸野邦男准教授は、米国の大学を卒業しスポーツマネジメントに携わってきた経験を持ち、スポーツや健康とアントレプレナー（起業家）育成を結び付ける研究を行っている。「アントレプレナーは、単に事業を起こせる人材というだけでなく、リーダーシップや協調性、リスクへの対応力などの能力も大きな特徴です」と、幸野准教授は語る。

「私が担当するゼミでは、経営学部や法学部の学生にピッチ（投資家などに短時間で新しいアイデアや商品をアピールすること）を英語で行うといった講義もあります。学生には、失敗してもいいので、新しい挑戦をしてほしいと言っています」（幸野准教授）

さらに実践的な講義も行われているという。米国ニューメキシコ大学（以下、UNM）とのパートナーシップにより、UNMのビジネススクールの1つであるイノベーション・アカデミーの起業家育成プログラムに山梨学院大学の学生が参加している。

日本人学生
10.5%



外国人留学生
89.5%

iCLAに所属する
日本人学生・外国人留学生
在籍比率（2024年4月現在）



カレッジスポーツセンター
副センター長
幸野 邦男准教授

「英語が得意でない学生も、必死になって勉強をし、ピッチができるようになります。貴重な体験ができたと言っている学生も少なくありません」と幸野准教授はその狙いを話す。

参加するだけでなく、優れた成果もあったようだ。「UNMイノベーション・アカデミーとUNMレインフォレスト・イノベーションズが共催するピッチコンペティションで、本学の学生2名が最高賞を受賞しました」（幸野准教授）。国際的な舞台で同大学の学生が力を発揮し、結果を出したことは意義深い。学生にとっても大きな自信につながったに違いない。日本の国際競争力低下が懸念される中、アントレプレナー教育が注目を集めている。幸野准教授は「様々な社会課題を自分のアイデアやイノベーションを通じて解決したいと考える人材を育てたいですね。そのためには周りの人を説得するコミュニケーション能力も必要です。本学のアントレプレナーシップ教育をさらに推進するため、iCLAや経営学部でUNMとの交換留学を行い、アントレプレナー人材を育成するプログラムも構築しているところとです」と展望を語る。今後、同大学から輩出される人材にも大いに期待がかかる。



UNMレインフォレスト・ピッチ・コンペティションで最高賞（ジャッジズチョイスアワード）を受賞